

## 尿沈渣検査の未来への扉を開く

～尿沈渣検査の精度保証～

◎浦壁 順一郎<sup>1)</sup>

医療法人社団兼愛会 前田医院<sup>1)</sup>

尿検査の精度管理と言え、まず尿定性検査の精度管理の事が思い浮かぶ事と思います。

それでは尿沈渣検査の精度管理はどの様に行われているのでしょうか。

尿沈渣検査は標本の保存が出来ない為、見返すことが出来ず、誤判定や見落としがあったとしても証拠が存在せず、結果さえ出ていれば、臨床は正しい結果であると理解するしかないし、それが正しい結果なのか誤った結果なのかは他の技師でも判別困難で、担当する検査技師の力量或いはレベルによりその結果は大きく左右される検査になります。

その様な検査であるからこそ尿沈渣検査の精度管理は非常に大切な事であり、精度保証をする事が必要なのではないでしょうか。

尿沈渣の精度保証をするためには①尿沈渣検査法の標準化②尿沈渣検査を担当する技師の必要十分な事前教育③尿沈渣検査を担当する技師のレベルの維持と向上などが必要となってくるのではないかと思います。

尿沈渣検査法 2010 が発刊されて尿沈渣検査の標準化が叫ばれて久しいですが、皆さんの施設では標準化は出来ているのでしょうか。

尿沈渣検査法を標準化するには尿沈渣検査法 2010 或いは J-STAGE 医学検査 2017 尿沈渣特集の方法を遵守する事が必須です。

しかし一例を挙げると尿沈渣検査を Sternheimer 染色のみで行っている施設がある事を耳にします。

尿沈渣検査は原則、無染色で行うものであり Sternheimer 染色はそれを補うものです。Sternheimer 染色だけで検査を行った場合、検査結果が異なる可能性が有るのです。

つまり尿沈渣検査を無染色で行って必要に応じて Sternheimer 染色も行う事が標準化された方法だと言えるのではないのでしょうか。

しかし精度保証された結果を出す上で、尿沈渣検査法の標準化が行われていても担当技師の事前教育やレベルの維持・向上が行われていなければ精度保証された尿沈渣検査であるとは言えないし、また担当技師が如何にレベルの維持がされていても尿沈渣検査法の標準化が行われていないと正しい結果を出すことは出来ないと思われれます。

この様な状況を鑑みて令和 7 年度日本臨床検査技師会九州支部学会において『尿沈渣検査の精度管理について』～現状と対策および展望～と題して臨床一般検査部門企画を開催する事を立案しました。

大分県、熊本県、鹿児島県、長崎県の演者の方に各県において行って頂いた尿沈渣検査の精度管理に関するアンケート調査を発表して頂き、尿沈渣検査の精度管理の現状を知り、課題・問題点、更にその対策などを述べて頂き、一般検査に携わる皆さんと共に考え、今後の九州支部における尿沈渣検査の精度管理をどのように行い精度保証を実現して行くかを導き出し尿沈渣検査の未来への扉をこじ開けたいと思います。

連絡先 0957-62-6501